

立命館経済學

第二十四卷 第五・六号

昭和五十一年二月

内 容

論 説

- 結合生産・価値・剰余価値……………甲 賀 光 秀 1
——Marx 剰余価値論への新しいタイプの批判について——
産業資本主義段階における
近代的独占の存在形態 (一)……………若 林 洋 夫 46
——北東イングランド石炭独占の歴史的過程——

研 究

- 戦後における企業内教育の展開……………三 富 紀 敏 109
一九二〇年代造船業における資本制的労働過程……………清 水 徳 一 163
——川崎造船所を中心に——

翻 訳

- フランスにおける労働者とその家族の権利……………原木田 嘉 久 206
——フランス労働総同盟『ボケート法律便覧』から——
共同研究室…………… 239

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第二十四巻・第三号

論 説

巨大企業分析と
「生産の集積」概念の展開……………坂本和一

研 究

一九世紀末「大不況期」の
過剰資本と生産の集積……………山本幹夫

——ドイツ石炭・鉄鋼業を事例として——

重化学工業資本の

強蓄積と租税政策……………藤岡純一

翻 訳

パルヴス「世界市場と

農業恐慌」(三)……………鈴木敏輝 正雄

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第二十四巻・第四号

論 説

欧州共同体の地域経済問題……………清水貞俊

寡占的諸行動と

マクロ的影響について……………北野正一

——寡占価格論への一接近——

翻 訳

フランスにおける

労働者とその家族の権利(一)……………戸田嘉久

——フランス労働総同盟

『ボケット法律便覧』から——

パルヴス「世界市場と

農業恐慌」(四)……………鈴木敏輝 正雄

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会